

6 林 業

項 目	作 業 内 容
<p>(1) 新植ほだ木の管理</p> <p>(2) 2年ほだ木の管理</p>	<p>(今月の作業のポイント)</p> <ul style="list-style-type: none"> ○新植ほだ木の管理 ○2年ほだ木の管理 ○古ほだ木の管理 ○病害対策 ○台風対策 <p>ほだ木の出来が後々の収穫を左右するため、シイタケ菌糸を原木内部にすみやかにまん延させることが肝要である。伏込み場をよく見回り、ほだ木の状態に合わせて管理する。</p> <p>裸地伏せの場合、笠木が薄くなったところは必ず補充し、直射日光がほだ木に当たらないようにする。日光の直射はシイタケ菌糸を弱らせ、樹皮の剥離や害菌の侵入を招く。西日の差し込む方向には笠木を十分に張り出す。スギ・ヒノキ人工林を伏込み場に行っている場合は、高温多湿になりやすいので、下草や灌木の刈払いを行って通風を改善する。</p> <p>生木状態のほだ木は菌糸が表面近くにしかまん延せず、うわほだになる。水分を抜いて枯込みを進行させるため、ほだ木の上下と表裏が入れ替わるよう天地返しや積替えを実施する。</p> <p>適期に伐採・葉枯しを行い、早期に植菌・仮伏せしたものは菌糸が順調に材内部にまん延している。しかし、伏込み場の環境は一様でないため、ほだ化が遅れていることがある。いくつかほだ木を抜き出して木口から30 cmほどで切断し、菌糸のまん延状態（ほだ付き）を観察・確認することが大切である（写真右）。</p> <p>ほだ化が遅れているようであれば散水し、散水できなければ低く伏せる。ほだ場の整理は夏場の重要な作業であり、間伐・枝打ちでほだ木に雨が当たるようにする。</p> <div data-bbox="911 1498 1396 1872" data-label="Image"> </div> <p>写真 ほだ付き調査 (材表面を肉眼的に判定)</p>

項 目	作 業 内 容
(3) 古ほだ木の管理	<p>まだ使用できるほだ木とボロボロになって使用できない廃ほだ木を仕分ける。使用できるほだ木は天地返しを行って、ほだ木内水分の均一化を図る。ほだ木の上下を変えないままだと、上部が水分不足となり、きのこの発生が下方に偏るようになる。天地返しによってほだ木を余さずに使え、増収につなげることができる。また、廃ほだ木の選別と同時にほだ場の清掃を実施する。廃ほだ木は害菌や害虫の発生源となるので、ほだ場に堆積せず離れた畑や山林などに処分する。</p>
(4) 病害対策	<p>高温多湿条件では、ほだ木の重要病害であるトリコデルマ属菌のまん延に注意が必要である。ほだ木の木口や樹皮の割れ目を中心に、初めは白色、後に緑色の塊の形で見られる。この属の菌はシイタケ菌を直接加害し、被害の大きいほだ木ではシイタケの収穫が望めないなど被害が大きい。未感染のほだ木を守るために、症状のあるほだ木はほだ場から搬出する。予防では、高温時に多湿とならないように、ほだ場・伏込み場周辺の草刈りなどで風通しを良くすることが肝要である。症状が出たほだ木は、風通しの良い場所に置くことで改善することがある。症状がひどい場合には、土中に埋設するなどの処分が必要である。</p>
(5) 台風対策	<p>8月は台風の多い季節であり、風害を受けやすいほだ場は事前に遮光ネットを外しておく。台風通過後は伏込み場やほだ場を巡回して、笠木や遮光ネットの点検を行い、復旧・補修する。ほだ木の上に落下した枝条・落葉は撤去し、ほだ木が倒れていたら起こして組み直す。</p>

(作成 林業研究センター)